

平成 25 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300244		
法人名	社会福祉法人 宝 寿 会		
事業所名	はなみずき石鳥谷		
所在地	〒028-3102 岩手県花巻市石鳥谷町上ロ一丁目3番地1		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成25年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0372300244-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成25年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人の理念「和と笑顔」を具現化して、職員が実践する事でグループホームの利用者に笑顔が多くるように努力している。職員への理念の浸透も行われている。又毎日の日課を全利用者が参加出来るような支援(歌・老人体操等..)を行っている。健康な生活を支援するために、毎日のバイタルチェックや感染症の予防のために手指消毒、口腔ケア、施設内外の清掃に力を入れている。
同法人の養護老人ホーム、デイサービスセンター等が隣接し、両施設間の利用者の交流が行われておる他、看護師の定期的な健康管理、終末期の支援、非常災害時の協力体制が出来ている。家族との信頼関係作りにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、同一法人の運営する養護老人ホーム・デイサービス等と隣接し利用者同士の交流のほか、避難訓練や行事など、一体的な取り組みを行っている。またホームでは、自己評価や外部評価を活かし、日頃の取り組みを振り返り、より質の高いサービスを目指すため、目標達成計画に基本的な視点である「ホームの理念「和と笑顔」を職員へ浸透を図りより具体的に実践に結びつける」、「利用者・家族の要望や意見を出しやすい工夫と運営への反映」、「運営推進会議を活用しての地域の方々とのつながりの拡大を図る」を掲げ、管理者・スタッフが一丸となって取り組んでいる。その結果、職員は意識的によく観察し気づきも多くなったほか、利用者・家族の意見・要望を待つのではなく積極的に聞く取り組み、地域サロンへの参加等かわりに積極的に外向くなど、今の取り組みに甘んずることなく、常に振り返りを大切にし、利用者本位の視点を重視した取り組みをしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念である「和と笑顔」に基づいた行動が十分でない為、目標達成計画に取り上げて、「和と笑顔」を具現化した実践項目を掲示して、管理者と職員の毎日の行動に活かし実践しております。	理念に沿った対応の在り方について目標達成計画で取り上げ取り組んだ結果、意識してよく観察することで気づきが多くなり、また職員相互のコミュニケーションが深まってきているなど、利用者・家族の思いの把握とその具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児や小学生との交流を設けたり、中学生や高校生のインターンシップを受け入れている。また、近くの公園に散歩に出掛けたりして、地域の方々と交流する機会を設けている。そのほかに、母体施設にも出入りして交流している。また、職員が地域のサロンやディサービスに足を運び、グループホームについて話をする機会を持っている。	散歩時の近隣住民との会話、デイサービス利用者との世間話、保育園児・小学生と行事を通じた交流等を深めている。中高生の体験学習の受け入れは就労支援に繋がることもある。なお、今後利用者とともに地域サロンに参加したいとしている。	毎月1回開催の地域サロンに利用者とともに参加したいとしており、施設内に迎える交流と併せて、利用者とともに地域に出向いて地域密着を更に深める幅広い特色ある交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方のご家族からの相談に応じたり、地域の集會に出掛け、グループホームや介護施設や介護サービスについて相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの状況や関心のある話題について話し合いを行っている。委員の方から、総合避難訓練に家族も来て頂いてはどうかという意見が出され、今年は家族にも参加の声かけをさせていただいた。また、構成メンバーに保育園や小学校の職員に参加していただくように働きかけをしている。	委員から避難訓練には委員の他、家族の参加呼びかけの提案があるなど、活発な意見交換をしているが、更に地域密着型の事業所運営を図るために、委員構成や会議の持ち方等、会議のあり方を考えたいとしている。	母体法人施設との連携も考慮しながら課題や行事を勘案して、地域の多様な人材から広範な意見・提言を戴けるような運営推進会議開催の工夫を更に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者や地域のケアマネジャーに実情を報告しながら、事業所との協力関係を作っている。	地域ケア会議や運営推進会議の場を通じて市担当者や地域包括支援センターの職員とは情報交換しているほか、認定業務や書類届出等の実務面では市支所の窓口と相談しながら協力体制は良好に保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修等で身体拘束について正しく理解している。今まで身体拘束をしないケアを実施している。どうしても生命の安全確保が必要な場合は、家族に説明を行い同意書をいただくことになっている。	「出かけることを止める」、「やりたいことを妨げる」等といった利用者の行動抑制に繋がることに着目し話し合いしながら、利用者の行動の意図を観察し、また見守りを重視した支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等の勉強会、研修を行い、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強しながら、日常生活自立支援制度を活用できるように支援している。現在1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には利用者・家族が納得するように説明を行っている。改定による変更がある場合にも説明を行い、理解納得を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族アンケートを行い、それをもとに職員で話し合いを設け、運営に活かしている。また、毎日の余暇活動の前には希望を聞くようにしているほか、家族の訪問時には、常に要望を伺っている。毎月家族には「生活状況」として、生活の様子をお渡ししている。また、苦情や不満の相談が出来るように苦情相談窓口を表示している。苦情・不満があった場合には、職員で話し合いを持ち、運営に活かしている。	家族の来訪時や家族アンケート(今回は、入浴・食事・職員対応等)を通じて訊ねたり、家族には利用者の「生活状況」として生活の変化や気づいたこと、気にかかることを毎月報告し相互理解に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の要望や意見を聞くように心がけている。一年に1回は職員がアンケートを書いて、運営について提案ができるようにしている。	業務改善提案としてのアンケートや話し合いで、職員の意見・提案を受け、新規エアコン導入や風呂場のナースコール設置など様々改善実践に繋げているほか、職務環境や利用者支援などを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の職務状況を把握し、働き甲斐があるように職場環境・条件の整備に努めている。職員は各自向上心を持って介護福祉士の資格取得をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の内部研修を1か月に1回以上受講してレベルアップを目指している。受講で大切と思われる事は、申し送りの時間を利用して読み合わせをしている。また、外部研修に参加した際は報告書を提出し、共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホームの連絡会があり職員が参加し、研修・情報交換の機会となっている。また、今年度も施設間での交換研修を行う予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて本人の生活状況の把握に努め、要望や不安を理解するようにしている。また、居宅のケアマネージャーからの情報を参考にして、契約時に安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接には家族も同席していただき、ご苦労されていることや今までのサービスの利用状況等を聞きながら、今後の支援の内容を示し、家族の要望に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、本人や家族との事前面接により生活状況の把握に努め、要望や不安を理解するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はその時その場面で、本人が出来ることを見極め、共に助け合って、支え合う関係を築くように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪した時は、生活歴や要望をお聞きし、共に支えていく関係を築く様に心掛けている。また、利用開始時に本人と家族の関係が不和な状況もあるので、職員が仲介役となって支援を行っている。家族には関係が疎遠にならないように、1か月に1回以上は面会に来訪するように依頼している。また、誕生会などの行事に参加して頂くように依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親族や友人に来訪していただき馴染みの関係が途切れないように支援している。また、来訪があった場合は、一緒に写真撮影をして、日常の会話の話題にしながら支援に努めている。	かつての職場の仲間や友人のほか、家族・親族の来訪があり利用者は楽しみにしており、この関係が継続できるように来訪をお願いしている。なお、毎月開催する地域サロンに出かけて新たな出会いと馴染みをつくりたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好になるように、常に気を配りながら支援している。また、食堂の座席もバランスを見ながら、お互いに話をしたり関わったりできるように心配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、利用者の様子を伺ったり、病院や施設を訪問したりして、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアチェック表やアンケートを利用しながら、普段の会話や家族からの聞き取りにより、情報を把握するようにしている。直接要望等を表すことが困難な場合は、態度や表情から要望を読み取り、職員間で共有し支援に結びつけている。	ケアチェック表のほか、アンケート(面接)により利用者から健康や食事、入浴、居住環境、職員の態度などを聞き取り、更に普段の会話や日常の行動をよく観察した内容を介護計画実行表にきめ細かく記入し、職員間で共有し一人ひとりの支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りの内容や家族、知人の訪問時にこれまでの生活歴を教えていただき、馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解しながら、バイタルチェックや介護実行票表を活用し、行動や心身の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきを日誌や申し送りに記入し、職員間で随時話し合いを持ち、本人や家族から思いや意見を聞き、モニタリングとカンファレンスを積み重ね、3か月ごとに介護計画を見直し、作成している。	経年化と共に介護度が徐々に上がり支援目標が高まっていく中で、介護計画の作成の際は、適切な日頃の観察や、モニタリング、職員間の話し合いを行いながら、体調や生活等の変化を適切に捉え見直ししながら対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、日々の食事・水分摂取量・排泄状況・健康状態や家族関係等を記録して、職員が情報を共有しながらケアの実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の健康状態の急変時などには、本人や家族の状況に応じて必要な支援を行っている。また、本人の外出希望や買い物の付き添い等の希望にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、消防・警察の協力を頂きながら、地域の方々や地域の保育園・学校と交流しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9人の利用者のうち7人が、母体施設の嘱託医がかかりつけ医としているので、受診支援はホームの職員が行っている。その他のかかりつけ医の受診は基本的に家族同行をお願いしている。血圧薬を服用している方の受診には毎日のバイタル表をお渡しする支援している。	医療受診は原則、家族対応としているが、利用者の多くは母体施設の嘱託医がかかりつけ医となっていることから、利用者の健康状態を把握している職員が同行している。母体施設看護師の定期的な訪問で健康チェックを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回は、健康相談日を設け、母体施設の看護師による診察を受けており、日常生活で健康状態に変化があった時には、看護師に情報を伝え、かかりつけ医との連絡調整や対応について相談し、指示をいただきながら支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と連絡を取り、本人が安心して治療が受けられるように情報を提供している。また、母体施設の看護師を通して細かな情報を伝えてもらい、回復状態を見ながら、退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に利用者や家族と話し合いを持ち、終末期や重度化した場合の支援については十分話し合いをしながら支援している。重度化になっても、グループホームでの生活を希望される方が多くおられ、ご家族の協力をいただきながら、職員も勉強会をして支援させていただいている。	終末期や重度化の対応指針が作成され、利用者・家族にも説明している。また職員も学習はしているが、これまで看取り等の経験はない。今後は介護度の高い利用者も多くなる現状を踏まえ、また医療機関との支援連携を図りながら対応したいとしている。	終末期や重度化への対応は、利用者・家族の意向に沿うこととなるが、地域密着型のグループホームのサービスの質の向上の視点から事業所内での対応の在り方をより一層深めることも一考である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えて、応急手当を年1回全職員で研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署と地域消防団員、地域住民のご協力をいただき、母体施設と一緒に総合避難訓練を実施している。その際グループホームの実態を理解して協力いただけるように働きかけをしている。また、独自の避難訓練も行っている。	最近の被災事例を踏まえ、隣接の母体施設と一体の避難訓練には地域住民や消防署、地域消防団などの協力を得て実施したほか、グループホームとして夜間想定した通報訓練、居室常備の懐中電灯や防空頭巾を活用した外庭に出る訓練なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないようにしている。お呼びする時は〇〇さんと名前を呼ぶようにしたり、職歴を伺い〇〇先生と呼びかけている。また、排泄介助時には声かけに気を付けている。特に記録や個人情報の取り扱いについては、慎重に行っている。	利用者の尊厳を念頭に一人ひとりの生活暦を尊重した言葉遣いに気くばりしている。排泄誘導や入浴時は特に羞恥心に配慮した声かけや介助の仕方に留意し、安心できる暮らしの支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場で本人の思いを表現できるように、身近な事柄の洗濯を支援している。例えばアンケートによる思いの表現や具体的な例をあげての選択などを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が望む過ごし方をさせていただくことを優先して、利用者のペースに添い、見守りしながら、一緒に生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、誕生会の服など本人の意向で洋服を選んでもらうように支援している。季節の衣類の入れ替えも職員と一緒に行うことができるよう声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理に参加出来る方はいないので、食事は職員が献立を決めて対応している。利用者からの要望があった場合は、変更も可能である。もやしひげ根取りや胡麻すり、クルミすりなどを手伝っていただいており、食事の時に〇〇さんが擦ってくれた胡麻ですよなどと感謝の気持ちを伝えている。また、行事食などは、あらかじめ要望を伺いながら献立を決めている。	利用者の希望や嗜好を聞きながら栄養士が献立を作っており健康・栄養面に配慮が行き届いている。誕生日には本人好みの献立を、また外出時は利用者自身がメニューを選ぶなど、変化と満足感を味わえる食事支援をしている。	調理に参加できる利用者は少なくなったとしているが、食事時は、利用者と職員と一緒に食べ、利用者同士や職員との賑やかな会話の中で、食べ残すことなく自分の力で食べ「美味しかった」という満足感の雰囲気継続を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスを考慮して食事作りを行っている。食事量をチェックして状況を把握している。(介護実行表に記録している)また、湯飲みコップを計量し摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行っている。食後には、嗽を実施して口腔内の清潔を保持している。また、夕食後には一人ひとりの状況を見ながら、歯磨きや義歯の洗浄を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成して一人ひとりの排泄パターンを把握し共有し支援している。全員の方がトイレやポータブルトイレで排泄している。夜間ポータブルトイレを使用している方も日中はトイレでの排泄を声かけしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し「排泄はトイレ」を基本に誘導している。夜間にポータブルトイレを利用の方もいるが、排泄の自立で生活の質の向上に努めている。なお、リハビリパンツから布パンツに切り替えた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように繊維質の多い食材や乳製品を毎日摂取し、定時に体操を行ったり、水分補給を行っている。排便チェック表により、排便が無い方に、多めの水分補給や下剤の服用を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を目安に入浴しているが、その日の利用者の状況に応じて対応している。現在は職員の介助を受けながら個人で入浴する方がほとんどである。	全員、介助支援しながらの入浴であるが、体調の把握や、昔の思い出や、やってみたい自分の思い等を聞く機会となっており、リラックスした雰囲気づくりを大切にしている。なお、入浴は週2回以上の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度を管理調整し、安眠できない時には、話し相手をしたり温かい飲み物を提供して安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方を職員が共有し、本人の状態に変化が見られた時は、看護師やかかりつけ医の指示が受けられるように連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況を見ながら生活リハビリを兼ね洗濯たたみ、掃き掃除、食器の下膳や食器拭きの役割を持って生活している。楽しみは、懐かしの歌を歌ったり、DVDで時代劇を観たり、談話をしたりして気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて、外出の希望に添えるよう施設周辺への外出支援を行っている。「自宅に帰りたい」「遠くに出掛けたい」と訴える場合は、ご家族の協力をいただきながら、支援を行っている。年1回、ドライブに出掛けしている。	天候の良い日は近くに出掛け外気浴を楽しんでいる。中庭に常時テントを設置しレクリエーションの場として利用するなど、気分転換を図る場を設けている。お花見やつるしびな祭りに出かけるなど、利用者の希望を聞きながらドライブも兼ねた外出支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない方がほとんどであるが、必要な時には、お金が出せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を書ける方はいらっしやらないが、電話については必要な支援を行っている。職員から家族に頼んで、電話を掛けて貰ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体から清潔感や明るい雰囲気を感じ取れるように、花を飾ったり、季節の壁飾りを掲示したりしている。玄関ホールや玄関先にベンチを置いて談話を楽しめるようにしている。食堂では、お互いの顔が見えるように配慮している。	利用者が集まる食堂等の共用空間から外に通じるしゃれた木製のサンデッキ周辺にはあやめが一面に植栽され春にはあやめ観賞ができる。室内の所々に飾られた季節の花や行事の写真は和やかな雰囲気を醸しだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の玄関ホールや食堂、和室で、仲間同士で過ごしたり、一人で過ごしたりすることが出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用する物は、今まで自分が使い慣れている物を利用したいと家族に協力をいただいている。環境が変わるので、馴染みのない物は、避けて頂いている。また、持ち物には大きく名前を書いていただいている。	居室には、洗面台や時計が設置されているほか、家族の写真や手作りカレンダーが貼られ、鉢花・観葉植物を置いたり自分らしい居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて「わかるように」表示したり、手摺りを配置して安全に自立できるように配慮している。		